

MUG CUP Essay

異国の
窓から

上海



福喜多 俊夫 Toshio Fukukita

福喜多技術士事務所

毎月何冊もの中国関連本が出版されています。中国を危険視するもの、中国の活力を好意的に紹介するもの、著者によって、中国に対する見方は大きく分かれています。中国は政治的には中国共産党の一党独裁、経済的には社会主義自由経済を標榜する、日本とは社会構造が大きく異なる国です。また、13億人を超える人口を有し、国土は日本の26倍もあります。そして漢民族が92%を占めているとはいえ、その他に55の民族が同居しています。言葉も共通語としての普通語が全国的に通じますが、大きく四つの方言（北京語、広東語、福建語、上海語）があり、地元の人同士では方言で話しています。

このように大きく、多様性に富んだ国ですから中国の全体像を捉えるのは並大抵ではありません。私は中国（上海）に10年住み、新疆ウイグルやチベットへも旅行していますが、「私の見た中国は中国の一部にすぎない」と考え、中国が分かったつもりにならないように気をつけています。同時に、いろいろ出版されている中国本も「ある切り口から見た中国」と理解し、自分の見た中国と対比しながら中国の全体像を自分なりに形作るようにしています。

さて、上海は中国一の大都市です。オフィス街では高層ビルがデザインを競い、郊外には30階を超えるアパート群が林立しています。繁華街の南京路には世界のブランド

ショップが軒を連ねています。一方、一步裏道に入ると街路樹に紐が渡されて洗濯物が干されており、歩道で髪を洗っている人がいます。そうです、中国は日本を抜いて世界第二位のGDPを誇る国であるとともに、未だに発展途上国を強調する国でもあるのです。

上海という街は、初めて上海を訪れる人がもっている先入観どおりの姿を見せてくれます。上海は高層ビルが立ち並ぶ大都市で、そこで暮らす人はオシャレで洗練されているとガイドブックで調べてきた人は、そのような光景を容易に目にすることが出来、なるほど上海は東京と変わらないと確認して満足します。反対に、中国はまだまだ日本とくらべれば10年は遅れていると先に旅行した人から聞いてきた人は、高架路から見えるアパートの窓から突き出された洗濯物や、静安寺の門前にたむろする物乞いの姿、裏通りの歩道にテーブルと椅子を並べた食堂を見て納得します。これも上海、あれも上海です。上海をはじめて旅する人は、どうか先入観をもたず、富と貧、新しいものと古いもの、高いモラルと低いモラル等が渾然一体となっている、そして、間違いなく活力に溢れている上海を見ていただきたいと思います。

我愛上海 （変化の早い上海が好き）

上海のマナーは向上したか

以前、上海人のマナーの悪さは有名でした。ゴミを平気で道に捨てる、車の窓から吸殻を捨てる、列には並ばない、人も車も信号を守らない。しかし、上海万博を境にマナーは確実によくなっていると感じます。赤信号で立ち止まる人が増えてきました。出勤時のビルのエレベーターでは整然と列を作るようになりました。空港でも銀行でも列を乱す人はず

中華人民共和國 *People's Republic of China*
経済成長率(実質): 9.2% (2011年) (中国国家统计局)
物価上昇率: 5.4% (2011年) (中国国家统计局)
人口: 約13億人

Shanghai



いぶん減りました。その中で確実に悪くなっているのが「犬の散歩のマナー」です。

以前は上海で犬を飼う人は少なく、犬を飼っているのは一種のステータスだったので、飼い主は犬の散歩のマナーをよく守り、道路際でも、公園の芝生でも犬の糞の始末はよく出来ていました。しかし、最近上海で犬を飼う人が急増し、それにつれて確実に「犬の散歩のマナー」が悪くなりました。ヨーロッパの街、特にベルギーでは歩道を歩くとき下を見て歩かないと危険でした。こんなところは先進国を見習う必要はありません。

上海で生活する場合、生活のリズムやある種のマナーを上海式にしないとストレスが溜まります。郷に入っては郷に従うことも必要です。でも、私たち日本人も知らず知らずによくないマナーに染まっているようです。たとえば、赤信号をしばしば無視する。日本のゴルフ場ではボールマークを必ず直す人が上海では気にしないし、バンカーの砂もならさない。「人のふり見てわがふりを直せ」を自分に言い聞かせているところです。

中国(上海)人の仕事観

中国人(とくに高学歴者)は就職するとき、会社よりも総経理を見て就職するかどうか決めることが多いようです。中国では組織に対する帰属意識は希薄で、信頼感は一族郎党、親分子分といった関係の中で生まれます。会社も同じで、会社組織に対する帰属意識は希薄で、信頼の尺度は自分の直属上司(実際には総経理がすべての権限をもっているところが多いので総経理)が尊敬出来る人格者か、尊敬出来る実務能力をもっているか、尊敬出来る行動力と決断力をもっているかで決まります。そして、上司を信頼して忠誠を尽くし、その忠誠に対して正当な経済的見返りがあるかが忠誠を継続する尺度となります。つまり、忠誠を尽くすに値する人から得られる

キャリアアップのためのソフトウェアと、忠誠を尽くした結果としてのハードウェア(経済的見返り)が得られるかどうかです。日系企業は日本人が総経理を勤め、その総経理も数年で代わるが多いため信頼関係が醸成出来ず、魅力に乏しいわけです。私も上海の会社に赴任した当初は、前からいる幹部との権力闘争を経験し、約2年間の試行錯誤を経て、中国での働き方のノウハウを会得しました。

やっぱり上海が好き

私が上海を好きな理由はその変化の早さです。上海に限らず、中国は常に変化しており、その変化の速さはドッグイヤーどころかマウスイヤーといわれるほどです。法律も社会システムも道路も街のお店もどんどん変化していきます。

中国は今秋の共産党大会で最高指導部が交代します。10年間中国を率いた胡錦濤総書記が退陣し、習近平氏が総書記に就任するのが確実視されています。最高指導部である政治局常務委員も、習近平氏と次期首相候補の李克強氏を除いてすべて交代すると予想されています。欧州の金融危機による世界景気の低迷の影響を受け、中国経済も不確実性を増しており、今年の全国人民代表大会で温家宝首相は今年度のGDP成長目標をこれまで堅持してきた8%以上から7.5%に引き下げました。秋に発足する新指導部がどのような政策を打ち出し、どのように景気を刺激していくのか。中国はまた大きく変化するでしょう。



PROFILE

福喜多 俊夫(ふきた・としを)

順利包装集團董事、福喜多技術士事務所所長
近畿大学理工学部卒、技術士、APEC エンジニア
カネカ定年退職後、順利包装集團(總公司香港)總裁として
10年間上海在住。